

次世代へ繋ぐ、先人たちの知恵。

庄原市立東小学校の児童が学ぶ、「里山文化体験」開催。



「里山文化体験」の様子（2025年2月13日撮影）

国営備北丘陵公園では、明治から昭和初期の備北地方の里山の風景を再現した「ひばの里」において、小学生を対象とした歴史・伝統文化学習プログラムに取り組んでいます。

今回、3月11日（水）に、ひばの里において、庄原市立東小学校の課外授業の一環として「里山文化体験」を開催します。

「昔の道具と暮らし」をテーマに、子どもたちが囲炉裏や雨戸などの昔の道具の使い方を実際に見て体験し、家屋や生活様式の変化を学びます。スイッチ一つで済む現代と、手間暇をかける昔の暮らしの違いを体感することは、先人たちの知恵を次世代へ伝える有意義な学習の機会になると考えます。

【日時】3月11日（水） 9：30～11：40

【場所】ひばの里 さとやま屋敷他

【参加】庄原市立東小学校 25名（3年生 22名、教員 3名）

※雨天決行

※詳細は別紙をご参照ください。

お問い合わせ先

国営備北丘陵公園

グリーンウインズ共同体 備北公園管理センター
企画広報課 課長補佐 清水（しみず）

〒727-0021 広島県庄原市三日市町 4-10

TEL：0824-72-7000 FAX：0824-72-7828

メール：kikaku@bihoku-park.jp

ホームページ：<https://www.bihokupark.jp>

Instagram：<https://www.instagram.com/bihokupark/>

里山文化体験「昔の道具と暮らし」

現代では当たり前の様に電気・ガスを使っていますが、これらが無い時は、薪や炭を使って、煮炊きしたりお風呂を沸かしたり暖を取ったりしていました。これに合わせて私たちの暮らし方や生活する為の道具、さらには家の造りも変わっていきました。

今回、ひばの里で昔の道具や家の造りを見たり触ったりして、今の暮らしとの違いなどを考えてみよう。

1.暮らしに使うエネルギーの変化

薪や炭の火が主なエネルギーでした。

薪・炭 → 化石燃料(石炭・ガス・石油) → 電気

※昭和前期まで電気で動くのは電灯だけ。



2.薪と炭の違いは何？

- ・炭は、山で木を切ってレンガなどを使って作った炭焼き窯に入れ、数日かけて炭にするなど大変な苦勞をして炭を作っていました。
- ・薪と炭は何が違うのかな？



3.家の構造の違い

- ・現代の家の中では、食事の支度やお風呂に入ったり、寒い時に暖を取ったりする際、当たり前の様に電気やガスを使っていますが、電気やガスが無い時は、家の中で薪や炭を使って火をおこしていました。

では、なぜ家の中で火を使っても火事にならなかったのでしょうか？

- ・夏の暑い日は、エアコン、扇風機で部屋を涼しくしていますが、これらがなかったときはどうやって涼しくしていたの？



4.暮らしの道具

私たちが使っている機械や電化製品は昔どんなものだったか見てみよう！

- ・からくり式のオートロック



- ・水車は何をする機械？

